

研究課題名：間質性肺炎における NKX2.1 変異に関する検討
研究期間：西暦 2015 年 12 月 1 日～2016 年 12 月 1 日まで
対象材料： ■ 間質性肺炎症例又は剖検に得た肺標本
意義、目的： <p>特発性間質性肺炎は原因が特定されない間質性肺炎で未だに予後不良の疾患である。これらの中には、家族性に間質性肺炎を発症する例があり、すでに SFTPC、ABCA3 などの遺伝子変異によって間質性肺炎を発症することが知られている。しかし、間質性肺炎自体の発症機序は明確でなく、症例数も少ないため、病態を含めて十分な解明がされていない。</p> <p>NKX2.1 はホメオドメインを含む核内タンパクで、肺においてはサーファクタント蛋白 A、B、C のプロモーター領域に結合し転写活性を制御することが知られている。間質性肺炎発症機序の一因として、サーファクタント蛋白異常があることは過去の報告から示唆されている。</p> <p>よって、NKX2.1 と間質性肺炎の関係について、その蛋白発現の有無を評価して研究する。</p>
方法 <p>本研究は、当科において剖検又は外科的肺生検を施行して、肺の凍結標本が残っている症例を対象とし、その肺組織中に異常な蛋白質が認められるかを検索します。</p> <p>すでに切除された検体を用いるため、新たな有害事象、健康被害や不利益は生じません。また、診療記録や抽出情報は厳重に管理し、論文発表などの際にも個人情報やプライバシーは保全致します。この研究において、臨床情報を使用することを承諾されない場合は下記までご連絡ください。また、その場合でも患者様が不利益を被ることは一切ございません。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口： 磐田市立総合病院 呼吸器内科： 妹川史朗 0538-38-5000